

目 次

SPKの企業文化	1
オーナーのみなさまへ	2
営業の報告	3
経営方針と見通し	4
中間連結貸借対照表	5
中間連結損益計算書／中間連結株主資本等変動計算書	7
中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
中間単体貸借対照表	9
中間単体損益計算書／中間単体株主資本等変動計算書	11
中間単体キャッシュ・フロー計算書	12
主要経営指標の推移	13
株式の状況／大株主	16
株価の推移／役員	17
会社概要／当社グループの主要な事業所／株主メモ	18

■ オーナーのみなさまへ

SPKオーナーのみなさまには、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

第136期中間期（平成18年4月1日から平成18年9月30日まで）の営業のご報告にあたり、日頃のご理解・ご支援に対し心から感謝申し上げます。

さて、当中間期の連結決算業績は、前年同期比で申し上げますと、売上高は0.2%の増収、営業利益は5.4%減、経常利益は3.3%減、中間純利益は2.5%の減益となりました。

オーナーのみなさまへの配当につきましては、配当重視の方針にもとづき、中間配当は2円増配の20円とさせていただきます。

下期も国内外厳しい環境が続きますが、仕事の質を高め、マーケットを深く耕すという地道な営業活動を根気よく積み重ねて「持続する収益力」を強化してまいります。

なにとぞ、今後とも一層のご理解とご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年12月

代表取締役会長 中嶋 功
代表取締役兼社長執行役員 小高伸介



会長 中嶋 功



社長 小高伸介

■ SPKの企業文化

<経営方針>

理念経営を推進する
人材育成に邁進する
伝統&変革への挑戦
真の中堅企業になる

■ 営業の報告

当中間期の概況

当中間期（連結）の売上高は、国内営業が前中間期をやや上回り、工機営業は引き続き好調に推移しましたが、海外営業が低迷し、前年同期比ほぼ横這いにとどまりました。利益面では、工機営業が大きく寄与しましたが、国内営業の競争激化による利益率低下と海外営業の売上低迷が影響し、営業利益は5.4%の減益となりました。

国内営業は、主要顧客基盤である專業整備業の市場縮小傾向が続いておりますが、基幹商品の販路拡大と輸入車部品の販売体制強化およびフォークリフト部品の販売チャネル安定化に注力しました。その結果、1.5%の増収となりました。

海外営業は、前中間期に主要メーカーの値上げ前の駆け込み受注がありましたが、当中間期はそのような特需要因がなく、また、中南米地域が競争激化のあおりを受けました。その結果、6.1%の減収となりました。

工機営業は、納入主要業界である建機およびフォークリフトの主要大手顧客の増産により、好調に推移しました。その結果、13.4%の増収となりました。

当社グループ経営データ

①当社グループの業績

(単位：百万円、%)

	当中間期	前中間期	対前中間期比
売上高	15,985	15,954	100.2
営業利益	704	744	94.6
経常利益	761	787	96.7
中間純利益	438	449	97.5

②当社グループの売上高データ

(単位：百万円、%)

	当中間期	前中間期	対前中間期比
国内営業	8,908	8,777	101.5
海外営業	5,114	5,445	93.9
工機営業	1,962	1,730	113.4
連結売上高	15,985	15,954	100.2

■ 経営方針と見通し

社会的貢献を維持するために、「豊かに持続すること」これがSPKの経営目的です。

<経営の基本方針>

- ① 企業の変革と経営の先進性を追求します。
- ② 全社員に成長するチャンスとステージを提供します。
- ③ 「持続する収益力」の維持・強化をめざします。
- ④ お取引先の満足と社会への貢献を追求します。
- ⑤ 株主、利益配分および情報開示を重視します。

収益体質は着実に強化されてきており、通期での増益に邁進してまいります。上期の2円増配に続いて、下期も1円増配し、通期で3円増配の40円配当をし、9期連続の増配を実現していきたいと考えております。

(自己株式の取得)

株主価値向上を図り、経済情勢の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため、上期より自己株式の市場買付を実施しております。市場買付をした自己株式は88,800株(平成18年9月30日現在、上限は16万株)であり、翌年3月31日までの市場買付を予定しております。

通期の業績見通し

国内営業は引き続き厳しい事業環境にありますが、地道に人材育成とマーケットの深耕を推進して、収益性を高めてまいります。海外営業は全世界で増加している日本車の保有台数をベースにして、それぞれの地域で固有の販売強化策を打ってまいります。工機営業は引き続き好調に推移するものと考えております。

当期連結業績の見通しは、期首の発表通り売上高330億円、経常利益17億円を達成してまいります。

<当社グループの業績見通し>

(単位：百万円、%)

	通期見通し	前期実績	対前期比
売上高	33,000	31,866	103.6
営業利益	1,570	1,464	107.2
経常利益	1,700	1,572	108.1
当期純利益	980	903	108.5

■ 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前 期
	平成18年9月30日現在	平成18年3月31日現在
資産の部		
流動資産	12,059	12,131
現金及び預金	2,347	2,086
受取手形及び売掛金	7,046	7,341
たな卸資産	2,284	2,277
繰延税金資産	124	170
その他	266	266
貸倒引当金	△ 10	△ 12
固定資産	1,713	1,773
有形固定資産	753	760
建物及び構築物	106	112
土地	619	619
その他	27	28
無形固定資産	195	232
連結調整勘定	—	32
のれん	24	—
ソフトウェア	161	189
その他	10	10
投資その他の資産	764	780
投資有価証券	396	438
繰延税金資産	151	135
その他	218	208
貸倒引当金	△ 2	△ 2
資産合計	13,772	13,904

科 目	当中間期	前 期
	平成18年9月30日現在	平成18年3月31日現在
負債の部		
流動負債	4,039	4,254
支払手形及び買掛金	3,190	3,188
未払法人税等	282	365
その他	566	700
固定負債	646	652
退職給付引当金	493	485
預り保証金	38	42
長期未払金	113	125
負債合計	4,685	4,907
資本の部		
資本金	—	898
資本剰余金	—	961
利益剰余金	—	6,969
株式等評価差額金	—	168
自己株式	—	△ 0
資本合計	—	8,996
負債及び資本合計	—	13,904
純資産の部		
株主資本	8,943	—
資本金	898	—
資本剰余金	961	—
利益剰余金	7,276	—
自己株式	△ 193	—
評価・換算差額等	143	—
その他有価証券評価差額金	143	—
繰延ヘッジ損益	0	—
純資産合計	9,087	—
負債及び純資産合計	13,772	—

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。